

倫 理

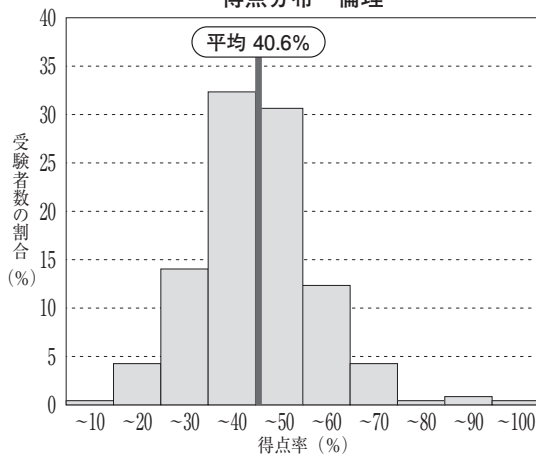
後回しでいいという気持ちではいけない。最初の一步を踏み出そう。

I. 全体講評

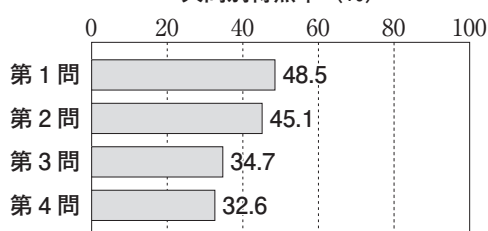
「第1回2月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は40.6点であった。第1問の青年期・現代社会分野の得点率が最も高く、第4問の西洋近現代思想分野が最も低い、という例年通りの傾向となった。

センター試験の倫理は2013年度に難化し、その傾向が2017年度になっても続いている。この模試で倫理を受験した皆さんのほとんどは、その難しさに驚いたことであろう。「センター試験本番レベル模試」は本試験と同レベルの出題内容であるから、当然ではある。しかし、その難しい試験に、来年の1月には挑戦しなければならない。であるから、その挑戦の結果を良いものとするためには、安直な気持ちで学習に臨まないことが重要である。真剣に向き合えば、必ず結果はついてくる。以下の大問別分析を十分に活用して、着実な一步を踏み出してほしい。

得点分布 倫理



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

読解問題は必ず正答しよう。

第1問の得点率は48.5%。やはり、問2 [2]、問3 [3]や問8 [8]のように、思想家についての知識を問う問題の正答率は低くなっている。これは現段階では仕方のない面もあるので、受験直前の段階ではこれらの問題に正答できるようになってほしい。また、センター試験の倫理では問5 [5]のような資料文読解や、問10 [10]のような本文の趣旨読解問題が出題される。この種類の問題は読解力をつければ正答可能であるから、国語の学習を積み重ね、必ず正答できるようになろう。

第2問 源流思想分野

倫理全体の土台となるのが源流思想分野である。

第2問の得点率は45.1%。本大問の知識を問う問題はすべて基礎的な事項から出題されているが、多くの正答率は低めという結果となった。この分野はいずれも日本思想分野または西洋近現代思想分野へとつながっていく大事な分野であるから、基礎知識という土台を確実に固めることを最優先としよう。

第3問 日本思想分野

江戸時代の思想家の思想を明確に区別できるようにしよう。

第3問の得点率は34.7%。問5 [24]と問9 [28]以外はすべて知識を問う問題であったが、知識が不足しているためにこのような得点率になったと推測される。しかし、気を落とす必要はない。これから学習を積み重ねていけば、日本史で名前を見かけたことがあるという程度の段階から、第3問の選択肢の文章すべての正誤を判定できる段階に至れる。なお、第3問で最も正答率の低かった問4 [23]の各選択肢は、いずれも頻出の思想家の説明であるから、誰についての説明なのかを読んですぐに判断できるようにしておきたい。

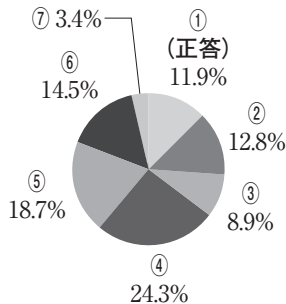
第4問 西洋近現代思想分野

まずは教科書を読み、基礎知識を増やしていこう。

第4問の得点率は32.6%。正答率が50%を超えたものは1問もなく、ほとんどの受験者が未習であることをうかがわせるが、この時点では致し方ないだろう。西洋近現代思想の用語は多彩で難解であるが、一つ一つ丁寧に理解していきたい。

この大問では、キルケゴールについての問題である問6[34]と、フランクフルト学派についての問題である問7[35]の二つが、正答率が10%台となった。いずれの問も選択肢の数が多かったという言い訳は成り立つが、これらのテーマは本試験でも出題される。対応できるようになっておきたい。

問6[34]の選択率



④のアとイを選んだ受験者の割合が正答率よりも高い。イは同じ実存主義者でもヤスパースの思想である。二人とも有神論的実存主義であるので似た点が多いが、キルケゴールが「単独者」、ヤスパースが「実存的交わり」という点で異なるので、注意しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆基本事項を確実に理解する。

ほとんどの受験者が倫理は未習のまま臨んだのであろうから、今回の模試の点数に一喜一憂する意味はない。これをきっかけにスタートを切ることが大切である。まずは基本事項をしっかりと固めることを心がけたい。教科書の記述通り、青年期、源流思想から始めるのがいいだろう。そして、夏休みが終わるころには全分野を通観しておきたい。

◆趣旨合致問題に注意しよう。

センター試験の倫理では、各大問の最後に趣旨合致問題が出題されている。これはそれぞれの大本問の本文の趣旨を答えるものであるが、今回の模試では結果が芳しくなかった。この問題は、誤りの選択肢に明確な誤りのポイントがあり、落ち着いて本文を読み、各選択肢の文章と比較して正誤を判定していけば正答にたどり着けるようになっている。読解力を磨き、落ち着いて取り組もう。

◆問題と解説冊子はまとめておく。

模試の問題と解説の冊子は各回まとめてとっておくこと。センター試験の倫理は他の科目と比較して選択肢の文章が長く、正誤を判定する実践的なトレーニングが不可欠である。東進模試は、センター試験本番と同じ形式・同じレベルの、またとない実戦教材であるから、直前になって取り出して、もう一度解き直せるよう整理しておいてほしい。

◆次回の模試に向けて。

倫理は主要科目とは違ってそれほど時間を割くことができない。それだけに、2か月ごとに実施される「センター試験本番レベル模試」をベースとして学習計画を組み立てることが重要である。毎回、「今回はこの分野を固めて確実に得点を取る」といったように、具体的に課題を設定して学習を進めていくのが効率的だろう。また、できなかった問題はしっかり復習して二度と間違えないようにしてほしい。